

コミュニティ音楽活動における図形楽譜に関する研究

【代表者】

沼田里衣 大阪市立大学 都市研究プラザ・テニユアトラック 特任准教授

【共同研究者】

上野智子 和歌山大学 教育学部 准教授

菅道子 和歌山大学 教育学部 教授

山崎由可里 和歌山大学 教育学部 教授

【研究概要（申請書より抜粋）】

本研究は、障害のあるなしに関わらない異年齢を対象としたコミュニティ創成プロジェクトにおいて、即興演奏とその演奏のための図形楽譜の可能性について、ワークショップを実施し、その成果を音楽教育領域において発表することを目的とする。

本研究の発端は、昨年度に共同研究として実施した、学齢期以降の障害者を対象とした異年齢プログラムにおけるインクルーシブな音楽活動の開発に関する研究（「即興演奏を用いた障害者の社会参加に関する研究」）の成果によるものである。当研究においては、即興音楽を用いたコミュニティ活動における研究と、特別支援学校における音楽プログラム開発の研究を融合させ、特に図形楽譜を用いた即興演奏の可能性をワークショップにおいて探った。当研究では、図形楽譜という視覚的要素を取り入れた即興演奏の方法を共同開発した結果、技術や価値観の差異によらずに音楽活動への参加を可能にすることが見出された。こうした成果から、本年度は引き続きワークショップで検証を行うとともに、その成果を音楽療法と音楽教育の理論をベースとし、事例報告とともに音楽教育の国際誌 *Music Education research*（インパクトファクター0.458）に投稿することを目的とする。

【研究成果（報告書より抜粋）】

本共同研究の今年度の成果は、昨年の共同研究から得られたインクルーシブな音楽活動に関する方法論を応用し、特別支援学校に通う生徒を中心としたコミュニティのためのプログラムを開発した点である。昨年度は、代表の沼田が蓄積してきた障害者やアーティストを含む地域の様々な人のリソースを用いて音楽活動を展開する方法と、和歌山大学音楽教育研究室が小・中学校に通う障害児を対象に蓄積した方法論をそれぞれ検討し、小学生以上の障害の有無を問わない2回のワークショップとして成果を発表した。今年度は、そこで得られた成果のうち、特に絵を楽譜と見立てて即興演奏する「図形楽譜」を応用した方法を発展させた。現代音楽で開発されてきたこの「図形楽譜」の方法は、音楽教育の領域にも応用され始めているが、音楽療法やコミュニティ音楽療法の領域で応用された例はまだほとんど見られない。こうした状況を鑑み、音楽教育とコミュニティ音楽の双方の知見を交換し、特別支援学級に通う生徒とコミュニティ音楽活動の参加者が交流する場を設定し、楽譜制作と即興表現を楽しむ方法論の有効性について検証した。

研究対象者は、和歌山大学の共同研究者と交流のある和歌山県の山間部にある特別支援学級に通う生徒や兄弟、父母14名、及び筆者が2014年より主宰する即興表現を行う「おとあそび工房」のメンバーが6名である。その結果、技術や価値観の差異のある人々が交流する際に、次のような利点があることが見出された。それらは、感覚的に演奏のコンセプトを共有できること、価値観の定まった伝統的音楽から距離を置くことにより、互いの価値観を尊重し合う場が自然と生起すること、また演奏だけでなく絵を描くことにおいても優劣の基準から解放され、障害の有無によらず多様な個性を認め合うことが可能となることなどである。終了後の振り返りの会やアンケートからは、こうした場を体験することにより、参加者が日常から解放されることの大きな意義も見出された。

こうした実践内容の理論化に関しては、本学主催のテニユアトラック研究集会で、「動いている音楽—臨床音楽学研究として」（沼田）、及び「学校の中の音楽『心の耕し』を願って」（上野）というタイトルで発表した。本研究で開発した方法論は、多様な人が共存する際の思想と結びついたものであり、それは「動いている音楽」という概念で言い表すことができると考えている。こうした理論と実践を往復しながら行う研究であることも、本研究の重要な特徴である。このテニユアトラック研究集会は、「教育とコミュニティ活動における対話と即興音楽」というタイトルで行われたものであり、代表者が行う大阪大学の臨床哲学を専門とする別の共同研究者との交流により、こうした実践研究に関わる様々な課題を共有することができた。

こうした実践を伴う研究は、現場における様々な調整を必要とするため、しばしば予定通りにいかないことがあるが、理論的内容の出版に向けては、著書にまとめているところである。論文発表に関しては、昨年とは異なる実施先の連携と方法論の開発に時間を要したため、今後の課題となっている。

研究業績		
※助成期間中に本研究課題を基に発表した著書、学術論文、学会発表、報告書等		
著書名/論文名/発表タイトル等	発表年	出版社名/掲載雑誌名/学会名等
沼田里衣／「動いている音楽－臨床音楽学研究として」、上野智子／「学校の中の音楽『心の耕し』を願って」、／研究集会「教育とコミュニティ活動における対話と即興音楽」	2019年 1月29日	OCUテニユアトラック研究集会2018、大阪市立大学学術情報総合センター1階文化交流室